

平成23年度 事業報告（概要）

社会福祉法人鳥取県厚生事業団

1 施設及び事業の実施

(1) 第一種社会福祉事業（15施設 入所定員1,125名、通所定員431名）

- ア 自主経営施設（12施設）
- イ 鳥取県からの指定管理施設（3施設）

(2) 第二種社会福祉事業（2施設5事業）

- ア 自主事業（2施設3事業）
- イ 受託事業（2事業）

(3) 公益事業（2施設8事業）

- ア 施設（2施設）
- イ 事業（8事業）

2 理事会、評議員会、監査及び施設長会

- (1) 理事会 6回開催
- (2) 評議員会 5回開催
- (3) 役員視察 1回実施
- (4) 監事監査 決算監査1回実施
- (5) 施設長会 5回開催

3 本年度実施した主要事項

(1) 経営基盤の確立等

ア 新・皆生みどり苑（特別養護老人ホーム）の運営開始

平成22年2月に着工し改築を行っていた皆生みどり苑が、平成23年3月に竣工し、4月から運営を開始し、ユニット型個室（一部多床室含む）による居住環境の改善と、ユニットケアによるサービス向上を図りました。

イ 障害者自立支援法における新事業体系への移行

平成24年3月末で移行期限を迎えた白兔はまなす園（知的障害者入所・通所授産施設）、障害者福祉センターあさひ園（身体障害者入所授産施設）、境港通勤寮（知的障害者通勤寮）の3施設について、移行後の事業形態の検討を行い、平成24年4月から新事業体系へ移行することとしました。

また、倉吉市内で運営していた小規模作業所「アトリエ」について、新事業体系移行の要請を受け、平成24年4月より当法人が運営（羽合ひかり園・生活介護事業の従たる事業所）するための準備を行いました。

ウ すずかけ（就労継続支援B型事業所）の移転新築

新たな活動の展開と作業の開拓を検討し、新規利用者を受け入れ、作業拡大を図るために事業所の建設を行いました（平成24年4月竣工、5月開所）。

エ 大規模修繕等

消防法施行令改正により設置が必要となったスプリンクラー設備について、西部やまと園、

厚和寮及び友愛寮の3施設が設置工事を行いました。

利用者サービスの向上、職員の介護負担軽減を図るため、三津白寿苑、羽合ひかり園、白兔はまなす園の3施設において、浴室・浴槽改修工事を行いました。

建物の老朽化に対応するため、厚和寮において屋根改修工事を行った一方、国庫補助金を活用して屋根改修を予定していた白兔はまなす園においては、補助金が予算化されなかったことから平成24年度に実施を見送りました。

老朽化していた友愛寮のナースコール設備の改修（更新）を行いました。

改築した皆生みどり苑の旧建物の解体工事を行いました。

白兔はまなす園（一部）の耐震化補強工事を行いました。

オ ケアホーム新築等

平成23年2月から建設に着手していたケアホーム（ひだまりホーム）について、23年5月に竣工し、6月から運営を開始しました。

その他にも、共同生活住居1か所を新規に開設しました。

カ 強度行動障がい者入居等支援

「鳥取県型強度行動障がい者入居等支援事業」補助金を活用し、知的障害児施設の高齢児の方の新規受け入れを行うとともに、当該補助金を活用して平成22年度に受け入れを行った方についても、引き続き支援を行いました。

キ 鳥取県版環境管理システム（TEAS）への取り組み

事業者として、地球温暖化問題等が社会的に大きく問題視される中、環境に配慮した取り組みとして、鳥取県版環境管理システム（TEAS）を新たに4施設が認証を受けました。

（21年度5施設、22年度8施設、23年度4施設、計17施設）

（2）福祉サービスの向上

ア サービス評価の受審

23年度は7施設が第三者評価を受審し、更なるサービスの質の向上に努めました。

イ 個別支援計画の充実

各施設のサービス管理責任者・介護支援専門員等と話し合い、サービス提供プロセス（PDCAサイクル）の稼働を確認し、個別支援計画の更なる充実に努めました。

ウ 福祉サービスメニューの充実

障害者施設においては、自閉症・強度行動障がい者への支援・音楽療法、厚和寮では高次脳機能障がい者への支援・パワーリハビリ機器による機能訓練、高齢者施設においては、ユニットケア、ターミナルケアの充実に努めました。

（3）人材育成

「鳥取県厚生事業団職員研修事業実施要綱」に基づき各種職員研修を実施し、人材育成を図りました。

（4）資格取得の促進に努め、23年度は延べ26人の職員が国家資格（介護福祉士等）を取得しました。

（5）平成23年度障がい者福祉従業者等研修事業の受託

鳥取県から障がい福祉従業者等研修事業を受託し、実施にあたり、当法人の職員が講師等を務めたことにより、豊富な優れた人材を有し、十分に研修機関としての役割を果たしえることを、内外にアピールできたと同時に、職員の自己研鑽の機会となり、資質向上につながりました。